

第 27 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和元年 6 月 5 日（水） 16：00～18：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

1. 予備エンジニアリング結果について

東京電力から、予備エンジニアリング結果について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 初号機の燃料取り出し方法の検討においては、取り出し装置のみならず、エンクロージャ及びその配置や収納・移送・保管まで含めたシステム全体として検討を進めていくことが重要である。
- 燃料デブリ取り出し作業はこれまで経験がなく、計画段階では想定し得ない事例が発生する可能性も否定できないため、これまでの 1F での経験等を踏まえてリスク回避策を検討しておくことが重要である。
- 燃料デブリ取り出し装置については、今回の検討内容ばかりでなく、新規アイデアの採用も含めて継続的に検討されるべきである。
- 燃料デブリ取り出し作業そのものがリスク低減活動となっていると認識すべきであり、デブリ取り出しの全体計画の検討もこの認識に立って進められるべきである。
- 取り出し作業に向けた環境整備においては、線量低減をどのように進めるかが重要な課題である。これを明確にした上で、時間軸も十分に意識して整備計画の具体化を図っていくべきである。
- 環境整備の取り組みは、作業員被ばく抑制のために遠隔操作システムを構築・採用することも含めてそのあり方を継続的に検討するべきである。
- 建屋内に存在する核種の組成等のデータを拡充した上で、取り出し作業の進捗に伴う状態の変化を考慮して、デブリ取り出し作業計画を更新していくことが肝要である。

2. 「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」の戦略的提案(ドラフト)について

NDF から、「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」の戦略的提案(ドラフト)について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 初号機の燃料取り出し方法の確定においては、取り出しばかりでなく収納・移送・保管も含めた取り組みの全体的な評価を整備することが肝要である。また、初号機の燃料取り出し方法の確定は、燃料デブリ取り出しプロセス全体の中で最初に手をつける作業を確定するということであって、初号機の燃料取り出しの方法や工法等のすべてを決定するものではないことを丁寧に説明すべきである。
- 初号機の燃料デブリ取り出し開始前に、取り出し技術の更なる充実に向けて改めて環境改善に取り組み、その知見をもとに全体的な環境改善戦略の充実を図るべきである。

3. 福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査の計画的実施に向けた基本的考え方について

NDF から、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査の計画的実施に向けた基本的考え方について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 廃炉・汚染水対策に関する分析・調査の位置づけをこのように明確化して、それを国際社会に発信していくことは大切なことである。

以上